

はじめに

F.F. ブルースは、イングランドのマンチェスター大学の神学教授で素晴らしい聖書学者でした。

彼は、いくつもの良質な聖書注解書を書いた人物です。

彼は、次のように語っています。

「聖書の難解な個所がむずかしい理由はふたつある。

第一に、時代や文化の違いのせいでむずかしい個所。そういった個所は、社会的および歴史的背景の説明なしには理解がむずかしい。

第二に、理解するのは容易いが、私たちの考え方や行いの正当性に異議を唱える内容である。」

マーク・トウェインは、理解できない聖書個所を不愉快に思ったのではなく、明確に理解できる個所を不愉快に思ったと言ったそうです。

イスラエルについて、そしてイスラエル民族およびイスラエルの土地に対する神の約束について聖書を学ぶとき、どうしても異邦人の視点で見えてしまい、これについて神が明確に教えておられることを見落としがちです。

聖書は神のみことばであることを忘れてはいけません。パウロがテモテに手紙を書いたとき、現在私たちが新約聖書と読んでいる書物はまだ存在しませんでした。

テモテ第二 3 : 16

3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

神はしもべたちをとおして旧約聖書をすでに書いておられました。そのしもべらは皆、生まれも育ちもユダヤ民族の出で、文化を理解しています。

聖書は、異邦人の益のために異邦人にも提供されたユダヤ人の書です。

旧約聖書は、神の民のためにヘブル語で記されました。ですから、旧約聖書を理解するためには、ユダヤとヘブルの文化を理解しなくてはなりません。

新約聖書は、おもにユダヤ人のために書かれましたが、もとはギリシャ語で記されました。ですから、新約時代のギリシャ語を理解する必要があります。これは非常に豊かな言語です。

なぜこのようなことをお話するかというと、これから学ぶ内容が非常に重要だからです。

今日私たちが学ぶみことばを記されたのは神ですが、神に示されてそれらを書き記した人々は皆ユダヤ人であり、神の選びの民に対する契約のうちにある人たちでした。

ですから、このシリーズを理解するためにはユダヤ人の視点を持つ必要があります。

そうしなければ、異邦人の目でしか見ることはできません。

異邦人の目だけで見ると、異邦人の視点でしか見ることはできません。

そうすると、神のみことばである聖書から示される啓示の全容を見逃してしまうでしょう。

ユダヤ人の視点を持たなければ、神のみことばからの啓示は、私たち異邦人の目で見たいものだけにとどまり、私たち異邦人のためにその啓示がどんな益をもたらすかだけを見ることになるでしょう。

それでは、キリスト教は異邦人の宗教となってしまいます。ユダヤ人が異邦人の規則規範や文化、異邦人の聖書理解に従うならユダヤ人を喜んで受け入れる、というものになります。

このシリーズをとおして、ユダヤ民族とイスラエルの地に関する神の約束について、神がみことばの中で何と教えておられるかを学んでいきたいと思えます。

つまり、神の約束に関して、「教会」は「イスラエル」に取って代わったのか、ということです。残念ながら、米国と英国では現在、「置換神学」を教える非常に強い流れがあります。そして、今では「スーパーセッションニズム（取替理論）」と呼ばれています。

これを信奉する人たちの主要な神学的主張は以下のとおりです。

1. 新約聖書は、イスラエルの民が神の民として永遠に退けられたと教えている。
2. 旧約の言語の新約における教会への適用は、教会が新しいイスラエルであることを示す。
3. ユダヤ人と異邦人がひとつにされたことは、将来におけるイスラエル民族の役割を排除する。

4. 新しい契約に対する教会の関係性は、教会のみがイスラエル民族の契約を相続すると示す。

簡単に言うと、神は教会をイスラエルとユダヤ民族の後任とされたので、イスラエルという民族にも土地にもはや目的はない、という主張です。

今後 4 回の説教で神のみことばを読み、皆さんがこのテーマについて自分の考えをちゃんと持てるようになることを願います。

私が信じていることを信じさせるために説得しようとは思っていません。

各人が自分で、神のみことばだけを根拠として何を信じるか決めなくてはなりません。

このシリーズは 4 部構成です。

第一部は、神の選民に対する神の約束と預言者をとおして神が語られた神の選民に関する預言を旧約聖書から学びます。

第二部・第三部は、ローマ 9-11 章の学びとなります。この学びでは、パウロがこのテーマについて教えた内容を学びます。

最終の第四部では、黙示録を読み、イエスの再臨後の神の選民の未来についてヨハネは神から何を教えられたかを学びます。

これで全体像を得ることができるでしょう。

学び 1

第一部：アブラハムに対する神の約束

まず、アブラハムに対する神の約束に関連するおもな聖書箇所を読むことから始める必要があります。

創世記 12 : 1-3

12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、**わたしが示す地**へ行きなさい。

12:2 そうすれば、**わたしはあなたを大いなる国民とし**、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。

12:3 **あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。**」

忘れてはならないのは、アブラムを最初に選ばれたのは神です。アブラムは後にアブラハムと呼ばれるようになりました。彼は、ある場所に行くために、今いる土地を出ていくようにと神に命じられました。

神は具体的な約束を 3 つなさいました。

1. わたしはあなたを大いなる国民とする。
2. 地上のすべての民族は、彼によって祝福される。
3. アブラハムとその子孫を支援する人々は祝福され、アブラハムとその子孫にひどい扱いをする人々は神によってのろわれさばかれる。

新約聖書のどこにも、これらの約束は神によって無効にされていません。

実際は、後ほど読んでわかるとおり、イスラエルが反抗的であり、神が彼らを罰せられる一方で、神は従順な残りの民をとおしてご自身の約束を守られました。

当時、すべての重要な約束や契約はある特定の方法で確立されました。

その方法とは、契約の当事者である両者が動物をふたつに切り裂き、その間を一緒に歩くのです。これは、その契約を守ることを視覚的に示すしるしでした。契約を破ったなら、その動物たちのようにふたつに切り裂かれることに同意するのです。

では、**創世記 15 : 11-19** を読みましょう。

15:1 これらの出来事の後、【主】のことばが幻のうちにアブラムに臨み、こう仰せられた。「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」

15:2 そこでアブラムは申し上げた。「神、主よ。私に何をとお与えになるのですか。私には子がありません。私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか。」

15:3 さらに、アブラムは、「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらないので、私の家の奴隷が、私の跡取りになるでしょう」と申し上げた。

15:4 すると、【主】のことばが彼に臨み、こう仰せられた。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」

15:5 そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」

15:6 彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

15:7 また彼に仰せられた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデヤ人のウルからあなたを連れ出した【主】である。」

15:8 彼は申し上げた。「神、主よ。それが私の所有であることを、どのようにして知ることができましょうか。」

15:9 すると彼に仰せられた。「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩とそのひなを持って来なさい。」

15:10 彼はそれら全部を持って来て、それらを真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。しかし、鳥は切り裂かなかった。

15:11 猛禽がその死体の上に降りて来たので、アブラムはそれらを追い払った。

15:12 日が沈みかかったころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして見よ。ひどい暗黒の恐怖が彼を襲った。

15:13 そこで、アブラムに仰せがあった。「あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。」

15:14 しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。

15:15 あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。

15:16 そして、四代目の者たちが、ここに戻って来る。それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることはないからである。」

15:17 さて、日は沈み、暗やみになったとき、そのとき、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、あの切り裂かれたものの間を通り過ぎた。

15:18 その日、【主】はアブラムと契約を結んで仰せられた。「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。エジプトの川から、あの大川、ユーフラテス川まで。

15:19 ケニ人、ケナズ人、カデモン人、

この個所に注目すべき重要なポイントがふたつあります。

1. この契約の確立において、アブラムは切り裂かれた動物の間を歩きませんでした。これは重要な事実です。というのも、神だけが契約を守る責任を負われたということだからです。この契約に人間の側が守るべきことはありません。神がこの契約を始めに造られ、この契約を守る責任を負われました。
2. 神が定められた土地は明確に示されています。このスライドは、その土地の範囲を示しています。もうひとつのスライドは、現在のイスラエルが占める土地です。

創世記 17 : 7-8

17:7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。 17:8 わたしは、あなたが滞在している地、すなわちカナンの全土を、あなたとあなたの後のあなたの子孫に永遠の所有として与える。わたしは、彼らの神となる。」

ここで注目していただきたいのは、神がご自身の民と土地に関して交わされた契約が「永遠の契約」だと指摘している点です。永遠は文字通り、永遠です。

次に、契約の条件に従う人間側の責任について注目する必要があります。

創世記 17 : 9-14

17:9 ついで、神はアブラハムに仰せられた。「あなたは、あなたの後のあなたの子孫とともに、代々にわたり、わたしの契約を守らなければならない。 17:10 次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。 17:11 あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたの間の契約のしるしである。 17:12 あなたがたの中の男子はみな、代々にわたり、生まれて八日目に、割礼を受けなければならない。家で生まれたしもべも、外国人から金で買い取られたあなたの子孫ではない者も。 17:13 あなたの家で生まれたしもべも、あなたが金で買い取った者も、必ず割礼を受けなければならない。わたしの契約は、永遠の契約として、あなたがたの肉の上にしるされなければならない。 17:14 包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、その民から断ち切られなければならない。わたしの契約を破ったのである。」

創世記 22 章で、神はアブラハムに息子をいけにえとしてささげるよう命じて彼の信仰を試されました。

創世記 22 : 1-2

22:1 これらの出来事の後、神はアブラハムを試練に合わせられた。神は彼に、「アブラハムよ」と呼びかけられると、彼は、「はい。ここにおります」と答えた。 22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」

これは、神による「試験」にすぎません。そして、アブラハムはその試験に合格しました。神はアブラハムの息子イサクの代わりにささげるいけにえとして雄羊を備えてくださいました。その後、次のみことばが記されています。

創世記 22 : 15-18

22:15 それから【主】の使いは、再び天からアブラハムを呼んで、 22:16 仰せられた。「これは【主】の御告げである。わたしは自分にかけて誓う。あなたが、このことをなし、あなたの子、あなたのひとり子を惜しまなかったから、 22:17 わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。 22:18 あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

この箇所から得られるのは新しい情報ではありません。むしろここでは、アブラハムの子孫から非常に大きな国民が興り、数えきれないほどになるということが明らかにされています。

ここで少し戻って、創世記 15 : 13-16 を読みましょう。

15:13 そこで、アブラムに仰せがあった。「あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。 15:14 しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。 15:15 あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。 15:16 そして、四代目の者たちが、ここに戻って来る。それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることはないからである。」

400 年の後、モーセとエジプトを襲った 10 の災いをとおして、神は約 200-300 万人にのぼるご自身の民を救いだされました。

その後、神は十戒をイスラエルの民に与えて従うよう命じられました。さらに荒野で天幕を設け、民がいけにえの掟に従えるようにされました。神のご臨在が神の民とともにありました。民は神への信仰が薄かったため、荒野を 40 年間放浪することになりましたが、ついにヨシュアの先導により、約束の地の征服が始まりました。

注目すべき点は、神がイスラエルの民のために選んで約束された土地に民が入植するプロセスで、受肉前のイエスがヨシュアを手助けされたことです。

ヨシュア記 5 : 13-15

5:13 さて、ヨシュアがエリコの近くにいたとき、彼が目を上げて見ると、見よ、ひとりの人が抜き身の剣を手に持って、彼の前方に立っていた。ヨシュアはその人のところへ行って、言った。「あなたは、私たちの味方ですか。それとも私たちの敵なのですか。」 5:14 すると彼は言った。「**いや、わたしは【主】の軍の将として、今、来たのだ。**」そこで、ヨシュアは顔を地につけて伏し拝み、彼に言った。「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか。」 5:15 すると、【主】の軍の将はヨシュアに言った。「あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」そこで、ヨシュアはそのようにした。

「主の軍の将」はイエスであると大半の聖書学者は言います。神の未来に対する計画のために、この土地に対する神の約束を成就するうえで、土地の征服をイエスが手助けされたことは明らかです。

民が神のすべての掟に従わなかったため、約束の地すべては征服しきれませんでした。それでも神は、示された土地のほとんどを征服できるようにヨシュアをお助けになりました。そして、イスラエルの民はその地に定住しました。この民を、周辺地域の他の民に対する証人とするのが神の目的でした。残念ながら、彼らは十戒に従わなかったため、神のさばきを受けて捕囚として外国へ連れていかれました。それにもかかわらず、神は常にご自身の民の残りの者を守られました。神の預言者たちをとおして、神は民に希望をお与えになりました。その希望とは、神に従う民として立ち直り、住む土地を持つ国民として回復されるという希望でした。では、その預言をいくつか見ていきましょう。

イザヤ書 49 : 1-26

49:1 島々よ。私に聞け。遠い国々の民よ。耳を傾けよ。【主】は、生まれる前から私を召し、母の胎内にいる時から私の名を呼ばれた。

49:2 主は私の口を鋭い剣のようにし、御手の陰に私を隠し、私をとぎすました矢として、矢筒の中に私を隠した。

49:3 そして、私に仰せられた。「あなたはわたしのしもべ、イスラエル。わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」

49:4 しかし、私は言った。「私はむだな骨折りをして、いたずらに、むなしく、私の力を使い果たした。それでも、私の正しい訴えは、【主】とともにあり、私の報酬は、私の神とともにある。」

49:5 今、【主】は仰せられる。——主はヤコブをご自分のもとに帰らせ、イスラエルをご自分のもとに集めるために、私が母の胎内にいる時、私をご自分のしもべとして造られた。私は【主】に尊ばれ、私の神は私の力となられた。——

49:6 主は仰せられる。「ただ、あなたがわたしのしもべとなって、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのとどめられている者たちを帰らせるだけではない。わたしはあなたを諸国の民の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

49:7 イスラエルを贖う、その聖なる方、【主】は、人にさげすまれている者、民に忌みきらわれている者、支配者たちの奴隷に向かってこう仰せられる。「王たちは見て立ち上がり、首長たちもひれ伏す。【主】が真実であり、イスラエルの聖なる方があなたを選んだからである。」

49:8 【主】はこう仰せられる。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。わたしはあなたを見守り、あなたを民の契約とし、国を興し、荒れ果てたゆずりの地を継がせよう。

49:9 わたしは捕らわれ人には『出よ』と言ひ、やみの中にいる者には『姿を現せ』と言う。彼らは道すがら羊を飼い、裸の丘の至る所が、彼らの牧場となる。

49:10 彼らは飢えず、渇かず、熱も太陽も彼らを打たない。彼らをあわれむ者が彼らを導き、水のわく所に連れて行くからだ。

49:11 わたしは、わたしの山々をすべて道とし、わたしの大路を高くする。

49:12 見よ。ある者は遠くから来る。また、ある者は北から西から、また、ある者はシニムの地から来る。」

49:13 天よ。喜び歌え。地よ。楽しめ。山々よ。喜びの歌声をあげよ。【主】がご自分の民を慰め、その悩める者をあわれまれるからだ。

49:14 しかし、シオンは言った。「【主】は私を見捨てた。主は私を忘れた」と。

49:15 「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない。

49:16 見よ。わたしは手のひらにあなたを刻んだ。あなたの城壁は、いつもわたしの前にある。

49:17 あなたの子どもたちは急いで来る。あなたを滅ぼし、あなたを廢墟とした者は、あなたのところから出て行く。

49:18 目を上げて、あたりを見回せ。彼らはみな集まって、あなたのところに来る。わたしは生きている。——【主】の御告げ——あなたは必ず、彼らをみな飾り物として身につけ、花嫁のように彼らを帯に結ぶ。

49:19 必ず、あなたの廢墟と荒れ跡と滅びた地は、いまに、人が住むには狭すぎるようになり、あなたを滅ぼした者たちは遠くへ離れ去る。

49:20 あなたが子を失って後に生まれた子らが、再びあなたの耳に言おう。『この場所は、私には狭すぎる。私が住めるように、場所をあけてもらいたい』と。

49:21 そのとき、あなたは心の中で言おう。『だれが私に、この者たちを生んでくれたのだろう。私は子に死なれた女、うまずめ、亡命のさすらい者であったのに。だれがこの者たちを育てたのだろう。見よ。私は、ただひとり、残されていたのに、この者たちはどこから来たのだろう。』」

49:22 神である主はこう仰せられる。「見よ。わたしは国々に向かって手を上げ、わたしの旗を国々の民に向かって掲げる。彼らは、あなたの息子たちをふところに抱いて来、あなたの娘たちは肩に負われて来る。

49:23 王たちはあなたの世話をする者となり、王妃たちはあなたのうぼとなる。彼らは顔を地につけて、あなたを伏し拝み、あなたの足のちりをなめる。あなたは、わたしが【主】であることを知る。わたしを待ち望む者は恥を見ることがない。」

49:24 奪われた物を勇士から取り戻せようか。罪のないとりこたちを助け出せようか。

49:25 まことに、【主】はこう仰せられる。「勇士のとりこは取り戻され、横暴な者に奪われた物も奪い返される。あなたの争う者とわたしは争い、あなたの子らをこのわたしが救う。

49:26 わたしは、あなたをしいたげる者に、彼ら自身の肉を食らわせる。彼らは甘いぶどう酒に酔うように、自分自身の血に酔う。すべての者が、わたしが【主】、あなたの救い主、あなたの贖い主、ヤコブの力強き者であることを知る。」

エレミヤ書 31 : 31-37

31:31 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。

31:32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ——

31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

31:34 そのようにして、人々はもはや、『【主】を知れ』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。——【主】の御告げ——わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」

31:35 【主】はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の【主】。

31:36 「もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、——【主】の御告げ——イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で一つの民をなすことはできない。」

31:37 【主】はこう仰せられる。「もし、上の天が測られ、下の地の基が探り出されるなら、わたしも、イスラエルのすべての子孫を、彼らの行ったすべての事のために退けよう。——【主】の御告げ——

エゼキエル書 37 : 12-14

37:12 それゆえ、預言して彼らに言え。神である主はこう仰せられる。わたしの民よ。見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。

37:13 わたしの民よ。わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたは、わたしが【主】であることを知ろう。

37:14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。このとき、あなたがたは、【主】であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。——【主】の御告げ——」

ゼパニヤ書 3 : 8-10

3:8 それゆえ、わたしを待て。——【主】の御告げ——わたしが証人として立つ日を待て。わたしは諸国の民を集め、もろもろの王国をかき集めてさばき、わたしの憤りと燃える怒りをことごとく彼らに注ぐ。まことに、全地はわたしのねたみの火によって、焼き尽くされる。

3:9 そのとき、わたしは、国々の民のくちびるを変えてきよくする。彼らはみな【主】の御名によって祈り、一つになって主に仕える。

3:10 クシュの川の向こうから、わたしに願い事をする者、わたしに散らされた者たちが贈り物を持って来る。

ゼカリヤ書 14 : 1-21

14:1 見よ。【主】の日が来る。その日、あなたから分捕った物が、あなたの中で分けられる。

14:2 わたしは、すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。町は取られ、家々は略奪され、婦女は犯される。町の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は町から断ち滅ぼされない。

14:3 【主】が出て来られる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる。

14:4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。

14:5 山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたは、わたしの山々の谷に逃げよう。ユダの王ウジヤの時、地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げよう。私の神、【主】が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る。

14:6 その日には、光も、寒さも、霜もなくなる。

14:7 これはただ一つの日であって、これは【主】に知られている。昼も夜もない。夕暮れ時に、光がある。

14:8 その日には、エルサレムから湧き水が流れ出て、その半分は東の海に、他の半分は西の海に流れ、夏にも冬にも、それは流れる。

14:9 【主】は地のすべての王となられる。その日には、【主】はただひとり、御名もただ一つとなる。

14:10 全土はゲバからエルサレムの南リモンまで、アラバのように変わる。エルサレムは高められ、もとの所にあつて、ベニヤミンの門から第一の門まで、隅の門まで、またハナヌエルのやぐらから王の酒ぶねのところまで、そのまま残る。

14:11 そこには人々が住み、もはや絶滅されることはなく、エルサレムは安らかに住む。

14:12 【主】は、エルサレムを攻めに来るすべての国々の民にこの災害を加えられる。彼らの肉をまだ足で立っているうちに腐らせる。彼らの目はまぶたの中で腐り、彼らの舌は口の中で腐る。

14:13 その日、【主】は、彼らの間に大恐慌を起こさせる。彼らは互いに手をつかみ合い、互いになぐりかかる。

14:14 ユダもエルサレムに戦いをしかけ、回りのすべての国々の財宝は、金、銀、衣服など非常に多く集められる。

14:15 馬、騾馬、らくだ、ろば、彼らの宿営にいるすべての家畜のこうむる災害は、先の災害と同じである。

14:16 エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の【主】である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。

14:17 地上の諸氏族のうち、万軍の【主】である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。

14:18 もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝いに上って来ない諸国の民を【主】が打つその災害が彼らに下る。

14:19 これが、エジプトへの刑罰となり、仮庵の祭りを祝いに上って来ないすべての国々への刑罰となる。

14:20 その日、馬の鈴の上には、「主への聖なるもの」と刻まれ、【主】の宮の中のなべは、祭壇の前の鉢のようになる。

14:21 エルサレムとユダのすべてのなべは、万軍の【主】への聖なるものとなる。いけにえをささげる者はみな来て、その中から取り、それで煮るようになる。その日、万軍の【主】の宮にはもう商人がいなくなる。

言うまでもなく、これらの預言はまだ成就していません。そして、その成就には、イスラエルという土地と神の選民であるイスラエルという国民が不可欠です。

このシリーズの第一部の締めくくりとして、皆さんには心の中で次のいくつかの問いに答えていただきたいと思います。

1. 聖書は時代を越えたすべての人のための神のみことばであり、歴史上の国や人々に向けて記された 100%真理だと信じますか。
2. 神は約束を守られると信じますか。これは非常に大切です。というのも、もしこれが信じられないなら、私たち自身の救いはどうなるのでしょうか。また、神が私たち一人一人に個人的に語られた約束はどうなるのでしょうか。
3. 旧約聖書は、イスラエルの民に対し、国民として彼らの住むべき土地に関する非常に明確な約束を与えたと信じますか。
4. 神は諸国の民に対して具体的なお計画をお持ちだと信じますか。また、神はご自身の主権によって、歴史上起こる出来事を導き、それらの民のためのご自身の計画を成就することがおできになると信じますか。

もし、これらの問いすべてに「はい」と答えるなら、この 4 つの問いの答えを覆すような内容は来週から学ぶローマ 9-11 章にはありません。

次の学びは、今日の学びよりも難しい内容ですから、わかりやすく説明する必要があります。どうか、ローマ書の個所を学んで準備する私のためにもお祈りください。